



蒜山高原。



訪れたいまち

第14回 岡山県真庭市



真庭市は高原や農村、町並みなど景観に配慮したまちづくりを行っている。名も知られない田舎の風景が、“どこか懐かしい心癒される風景”となって生まれ変わり、どこにでもありそうな静かなまちに多くの観光客が訪れるようになった。

2005年五町四村が合併した真庭市は、岡山県北中部に位置する。岡山道・中国道・米子道の開通により、山陰地方とのアクセスはよい。半面、当時、有名な観光地が少なく地場産業も低迷しており、観光客や人口の流出などが起こるのではないかとという危機感から、地元の若手リーダーが集まり、21世紀の真庭塾^{マニマニ}という勉強会を始めたのは1993年。

今ある地域の財産や資源を活用してまちの空洞化を防ぐため、さまざまな試みが行われていた。

真庭遺産

まちには、天然記念物や史跡などの文化財に指定されてはいないけれど、ずっと残しておきたいと思わせる茅葺き屋根の家、黒塀、白壁、神社、桜、川、大きな木、田んぼ、水源の森――が点在していた。それは、まるで

民話から抜け出したような風景だった。自然災害も少なく、四季の変化に富み、温泉や森林など自然の恵み豊かな暮らしやすい風土でもあった。

世界遺産が話題になる一方で、暮らす人がいなくなった古民家が廃屋となり、日本独自の温かい農村の原風景がひとつ消えかけていた。朽ち果てて行く家をなんとかして保存したいと考え、観光カリスマ^{カリスマ}の徳永巧氏が地元の町おこしグループや自然保護団体、有識者などに呼びかけ、真

庭遺産研究会^{マニマニ}は発足した。「主役ではない、脇役かもしれないが、人と自然との関係を語り続け、トータルとして日本の魅力を発信してきた地域の財産を『真庭遺産』と呼んでいます。掘り起こし多くの人に知ってもらえたら残して活用する知恵やアイデアも生まれるだろうと考えました。」

それらを文化財、生態系、景観、歴史的資源などとして捉え、活用しながら保護保全を進めています。その活動の中でたとえば古民家を建てる職人さんの技術やノウハウなども次の世代へ伝承されています(徳永氏)

自然景観の保護活動を新しい観光のスタイルに

掘り起こされた「真庭遺産」は現在1000以上あり、個々の風景は新聞などでも紹介されている。

北部は鳥取県と接し、蒜山高原^{ひるぜん}にはジャージー牛の放牧風景が広がる。高原に開けた農村にログハウスではなく民家が佇む風景は、日本のスイスといったところか。

「大山隠岐国立公園に隣接する蒜山は、山里の風景を持ちながら高原の景色を併せ持つ貴重な地域です。日本はヨーロッパなどと比べて森も発達していて、水田、古民家など世界に誇れる自然環境を持っています。保護活動そのものがエコツーリズムと



勝山河畔家並みの風景。

「暖簾」が「つなぐ町並み」

南部にはかつて出雲街道の宿場町として栄えた勝山町並み保存地区がある。白壁や格子窓の続く古い家

して旅行やレクリエーションにもなりませす。夏は自然体験、冬はスキー、雨が降つたら温泉や田舎暮らし体験に変更するなど季節や天候に応じて柔軟な旅行を企画する工夫も大切だ(徳永氏)

変化に富んだ自然や昔懐かしい景色を再生したことで、希少な野生生物が生育するようになり生物多様性も高まった。津黒いきものふれあいの里や湯原温泉(旅館組合・観光協会)と連携して国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」の保護と観光を結びつけた取り組みも行っている。

また、地域固有の自然や風土を保存するために地元農家などが主体となつて自然体験型の観光事業を展開する新しい雇用への期待も高まっている。

の軒先に「暖簾」がかかり風情ある町並みが続く。

これは勝山にUターンしてきた草木染作家の加納容子氏が築260年の古い実家に自分で作った暖簾をかけたところ反響を呼び、1996年頃から町内の希望者にオリジナル暖簾を作り始めたもの。市で製作費の一部補助をした結果、800メートルの道に商家・民家を合わせて100枚以上の暖簾がかかるようになった。家業や季節毎にメッセージや物語がこめられた暖簾は、まちの風物詩になった。高齢者世帯も多い昨今では、数日暖簾がかかっていると隣人から「どこか具合でも悪いの？」と声がかかる。毎年、3月3日を含み五日間開催する「勝山のお雛まつり」は、今年で14回目。今では160軒余りの家が参加する大イベントだが、最初は「もしよかつたら、軒先にお雛様を飾ってもらえませんか」と数件のお宅に声をかけたのが始まりだと言う。

節分が過ぎると、家々でお雛まつりの準備が始まり、ご近所同士のコミュニケーションも深まる。ろうそくや桃の花を飾り、保育園児が作ったほのぼのとしたお雛様から代々伝わる由緒ある雛人形も飾られる。ここに暮らし、心からおもてなしをする土地の人とのふれあいを楽しみに訪れるリピーターも多い。

町民自ら「NPO法人勝山町並み

●「観光カリスマ」とは

従来型の個性のない観光地が低迷する中、各観光地の魅力を高めるためには、観光振興を成功に導いた人々のたくいまれな努力に学ぶことが効果的と考えられます。観光庁では、各地で観光振興の核となる人材を育てていくため、その先達となる人々を「観光カリスマ」として選定し、経歴や実績などを紹介しています。

検索 観光カリスマ一覧



「観光カリスマ」徳永巧氏(右)。「掘り起こしに関しては、彼は本当にええ目をもっとるよ。その感性は素晴らしい。地元の間でもこんな所あったかなあ、というような何でも無い所目につける」真庭市在住・村澤賢典氏(左)



山間に見る茅葺き民家。



加納容子氏デザインの草木染暖簾が続く勝山地区。平成21年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」受賞。緑の暖簾は散髪屋さんの櫛をイメージ。赤の暖簾は料亭で使われていた重箱の蓋のデザイン。



元郵便局にかかる暖簾。



自動車修理店の暖簾とひな人形。

●都市景観大賞「美しいまちなみ賞」とは

地方公共団体とNPOなどの協働で美しいまちなみの形成を行っている優れた地区を表彰し紹介することにより、全国に良好な景観をもった都市空間の形成が進んでいくことを目指しています。(H13~22年度、H23年度~「都市空間部門」「景観教育・普及啓発部門」)



「ひるぜん焼そば」(イメージ)。

委員会」などを結成。観光客のためにみやげ物屋をたくさん作るような町おこしではなく、毎日の暮らしの中から楽しいことを見つけ住人が幸せになる町づくりを進める。文化や芸術を高め観光資源としたのである。

未来遺産を育む

市は、バイオマスタウンに認定され、森林など生物資源を活用した持続可能な循環型社会を目指している。地元の集材メーカーでは、集材を作る課程で生じる木屑をペレットストーブの燃料として活用する技術を開発した。視察のため、国内外から年間延べ二万人が訪れていたことに着目し、「バイオマスツアー真庭」をスタート。関連事業所、真庭観光連盟、真庭市が連携し、窓口の本化とバイオマス事業による地域づくりをテーマとした新たな産業観光を創出した。

食文化で話題を呼んでいるのが、昔から各家庭で作られていた味噌だれとキヤベツ、鶏肉を使った「ひるぜん焼そば」。これを広く全国に発信し、2011年Bリーグランプリ姫路でゴールドグランプリを受賞した「ひるぜん焼そば好い」とん会。夜限定販売でお酒に合うよるぜん焼そばや、目玉焼



バイオマスツアー真庭。バイオマス事業による地域づくりをテーマとしたバスツアーを企画し、産業観光の創出と地域振興に貢献する。第4回新エネ大賞優秀普及啓発活動部門「経済産業大臣賞」受賞。

きを載せたあさぜん焼そばの開発で観光客に滞在を促すしかけ作りも怠らない。

さらに、産官学の協働で様々な活動の核となる人材と組織づくりが進み、地域の宝を子ども達に伝える体験教室なども行われている。

どこにでもある風景でもそれは、日本にしかない風景で、日本人はもちろん、外国から来た観光客が憧れる日本らしい風景だった。

自立心旺盛で心豊かな真庭人は、伝統的な日本の景観と日々の生活を愛おしみながら、地域資源を保存・再生し、文化資源を醸成させた。

美しい自然は人に感動を呼び、懐かしいのどかな風景は安らぎを与え人が訪ねてくることのなかった町に人が訪れるようになった。

大切なものは何か、幸せはどこにあるのかを語りかける真庭のまちに未来遺産が満ちていた。

※木製ペレットを燃料とし、熱効率が高く二酸化炭素を発生しないため環境にも人にも優しいストーブ。

真庭市 Guide Map

江戸時代の宿場町。がいせん桜通りは「夢街道ルネサンス」に、その両側を流れる小川(水路)は「残したい日本の音風景百選(環境省)」に選ばれている。

清流自然学校。川下りを楽しみながらオオサンショウウオの棲む旭川を観察する。

中上流域の河原部分からはどこでも湯が湧く。共同露天風呂「砂湯」は全国露天風呂番付の西の横綱と評される。

旧遷喬(せんきょう)尋常小学校。明治40年建築のルネッサンス風木造校舎。土日祝日には学校給食体験有り(要予約)。『ALWAYS 三丁目の夕日』やNHK連続テレビ小説「カーネーション」のロケ地として有名。校庭(エスパランド)で毎月第3日曜日は軽トラ市で賑わう。

高さ110m、幅20m。滝の規模は西日本一で、「日本の滝百選」に選ばれている。

夕景の醍醐桜。(落合)岡山県の天然記念物で推定樹齢1,000年の名木。

町並み保存地区
新庄宿(真庭郡新庄村)

神庭の滝

勝山町並み保存地区

醍醐桜

湯原温泉

津黒いきものふれあいの里

米子自動車道

岡山自動車道

JR姫新線

毎来寺

旧遷喬尋常小学校 エスパランド

MLITレポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter

中国地方整備局
岡山国道事務所
計画課長
岡本 雅之



中 国地方整備局では中国経済連合会と連携して「夢街道ルネサンス」という取り組みを行っています。これは、中国地方の旧街道を活かし、地域住民が主体となって歴史や文化、自然を活かした個性あるまちづくりを行っている地区を



ふき や おうらい
吹屋往来とと道(岡山県高梁市)
江戸～明治にかけて建てられた赤瓦にベンガラ塗りの町並み。海産物を運ぶ道であったことから「とと(魚)道」と名付けられた。

認定しているもので、現在34地区、岡山県内で7地区が認定されています。

岡山国道事務所では、ホームページなど各種メディアを活用して認定地区の活動を紹介しています。また、認定地区の場所や活動内容が書かれているパンフレットを道の駅の情報コーナーなどで配布し、道の駅を起点とした周辺地域の観光に役立てていただいています。

目的地に向かって移動するだけでない“楽しみながら巡る”新しい街道を歩きにいらっしやいませんか？



夢街道ルネサンス認定地区

- | | | |
|--------------|--------------------|----------------|
| 1 萩往還 | 10 出雲街道新庄宿 | 19 青石畳通り |
| 2 西国街道 | 11 出雲街道津山城東むかし町 | 20 吹屋往来とと道 |
| 3 八橋往来 | 12 鹿野往来 | 21 草津まち歴史の散歩道 |
| 4 智頭往来 | 13 木綿街道 | 22 若桜清流通り |
| 5 風待ち海道 | 14 ますだ歴史浪漫街道 | 23 備前福岡七小路往来 |
| 6 出雲街道勝山 | 15 銀山街道上下宿 | 24 岩国往来 |
| 7 二葉の里歴史の散歩道 | 16 いにしへの里三次物怪・でこ街道 | 25 豊田ほたる街道 |
| 8 天領江津本町藪街道 | 17 石州街道出口通り | 26 山陽道矢掛宿 |
| 9 境往来 | 18 毛利侯御殿湯街道 | 27 吉備野みちくさ小道 |
| | | 28 街道 東城路 |
| | | 29 城下町長府夢街道 |
| | | 30 琴ノ浦歴史街道 |
| | | 31 ながと大内湯けむり街道 |
| | | 32 津田侯殿様街道 |
| | | 33 美郷町石見銀山街道 |
| | | 34 西国街道・海田市 |

検索 夢街道ルネサンス